



THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11
山梨Y.M.C.A.青少年センター
〒400-0032 TEL 055-235-8543
FAX 055-235-8653

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部長主題
甲府21会長主題

Our Future Begins Today. 私たちの未来は、今日より始まる
Respect Y's Movement ワイズ運動を尊重しよう
明日に向かって、今日働こう
あずさ部は賜物の宝庫、もっと生かそうぜ!
楽しい、奉仕のしがいあるクラブにしよう

2016
10月号

★今月の聖句★

あなたは安息の年を七回、すなわち七年を七度数えなさい。七を七倍した年は四十九年である。その年の第七の月の十日の贖罪日に、雄羊の角笛を鳴り響かせる。あなたたちは国中に角笛を吹き鳴らして、この五十年目の年を聖別し、全住民に開放の宣言をする。それが、ヨベルの年である。あなたたちはおのおのその先祖伝来の所有地に帰り、家族のもとに帰る。五十年目はあなたたちのヨベルの年である。種蒔くことも、休憩中の畑に生じた穀物を収穫することも、手入れせずにおいたぶどう畑の実を集めることもしてはならない。この年は聖なるヨベルの年だからである。あなたたちは野に生じたものを食物とする。

レビ記 25 章 8-12 節 寺田 喜長 選

2016年10月例会

日時 2016年10月4日(火) 19:00
会場 YMCAセンター
司会 葉袋勝メン
開会点鐘 松村禎夫会長
ワイズソング
ワイズの信条
会員ひと言 寺田喜長メン
会長挨拶 松村禎夫会長
ハッピーバースデー
ワイズディナー
ゲスト紹介 鎌田巖メン
ゲスト卓話 佐野将恵様
「玉穂キリスト集会所の設立と現在の活動」
会員卓話 小澤智之メン
「ベビーカーコンサートについて」
諸報告、YMCAの歌
閉会点鐘 松村禎夫会長

ワイズメンズクラブ モットー

『強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う』
『To acknowledge the duty
That accompanies every right』

9月のデータ (在籍数21名)

9月例会出席者数	18名	ゲスト3名	合計21名
9月第二例会出席者数	13名		
出席率	18/21	85.71%	
ニコニコ募金	第1例会	11,080円	
〃	第2例会	0円	
〃	9月合計	11,080円	
〃	累計	30,450円	

10月の誕生者

(メン) 佐藤 重良(12日) 荻野 清(19日)
(メネット) 松村 仁子(5日) 野々垣 悦子(5日)

●●●● 今後の予定 ●●●●

○10月6日(木)第2回バザー委員会	YMCAセンター	18時～
○10月19日(水)第二例会	YMCAセンター～若奴	18時30分～
○10月22日(土)あずさ部会	在日本韓国YMCAアジア青少年センター	13時30分～

2016-2017年度 10月

会長挨拶

松村禎夫会長

今年の9月は、例年になく次々と台風が到来し、日本各地に風水害をもたらしました。被害を受けられた多くの方々に、心からお見舞い申し上げたいと思います。

ところで、9月はユース月間で、甲府21クラブからはユースボランティア・リーダーズフォーラムに3名が初めて一日参加し、昼食のワイズカレー作りの奉仕をしました。本ブリテンに小澤メンが、簡潔でかつ内容の充実した報告をしておりますので、そちらを是非お読みください。それにも述べられていますが、山梨YMCAにユースボランティアリーダーが現在存在しないことが、問題点の一つであることを痛切に感じました。山梨YMCAの支援クラブである甲府21クラブでも、考えなくてはいけない課題だと思います。

先月は、もう一つのイベントである富士五湖クラブ主催の『富士山例会』に、私は他3名の方と参加しました。別途報告しますが、富士五湖クラブの優れたホスピタリティーのおかげで、『富士山例会』は、他のクラブとの交流の場としても、とても楽しく有意義な集会でした。先月も述べましたが、多くの友との交流の場とYMCA支援を中心としての奉仕の場が車の両輪として機能することが、ワイズダムのコアであると改めて強く感じました。

今月はEMC月間です。当クラブとしては現役世代の会員増強が喫緊の課題です。この会員増強を促進するためには、ワイズメン一人一人が楽しいクラブライフを送り、奉仕していることを楽しく感じてなくては難しいです。老舗のクラブも含めて超スピードで高齢化、縮小化が進んでいます。わがクラブは幸いなことに、この2、3年は少し若返ってきましたが（平均年



齢68歳)、創立時のチャータメンバの平均年齢44歳には比較になりません。ワイズダムを質量ともに充実させるためには、一人一人が若い仲間をクラブに誘う努力をもっとしたいものです。

9月例会報告

寺田喜長書記

日時 2016年9月6日(火) 19:00～

会場 山梨YMCAセンター

出席者 相川、饗場、稲垣、荻野、小澤、功刀、
駒田、佐藤、茅野、寺田、奈良田、野々垣、
廣瀬、古屋、松村(禎)、松村(豪)、薬袋、
山縣、 (18名)

ゲスト 露木総主事、後藤哲夫氏、山本俊一氏
21名

司会：松村(豪)メン、一言：茅野メン、
ペンリレー：山縣メン「平和を考える」

立て続けに台風が列島を駆抜ける今までにない初秋です。9月例会は定刻に会長点鐘にて開会、茅野メンの一言は、昨年12月に80才到達を機に検診を受けたところ、治療を要する病気が見つかりその治療準備の為の受診中に心筋梗塞が起こり、即座に対応できて一命を取り留める事が出来た。節目の年にたまたま検診を受けようと思ったことに何かの力が働いたと思われる不思議なものを感じ、生かされた命を大切にしていきたいと貴重な体験を話されました。

会長挨拶の中でユース強化月間の今月行われるユースボランティア・リーダーズフォーラム(YVLF)を支援し、ワイズが積極的に参加し次の時代を担う若きリーダー達と交流する機会を持つことがワイズ活動の参考に成るのではないかと。キャンプ活動はYMCA活動の基本の一つであり、自身もハイY時代のワークキャンプで育てられた経験から大切な事と思う。「今回は急遽1日参加してみるつもりです。何方か参加してみませんか」と新しい試みにチャレンジする意向を示しました。参加報告を期待します。ゲストの後藤氏を含む4名の8月誕生者をお祝いしました。「時間を取り戻し、自分が磨いてきたものを土台にジャンプする林住期である」と

思う年齢から41歳の働き盛りまでの3世代にわたる方々の広い範囲に亘る年代の方達の誕生日コメントがありました。

例会卓話は露木山梨YMCA総主事をお招きし「YMCA将来計画ビジョン」として第5回日本YMCA同盟協議会（6月18・19日）にて発表された「YMCAブランドコンセプト」について説明を頂きました。ブランドコンセプトは「日本YMCA基本原則」の理念を、より伝わりやすい言葉に言い換えたもので、皆が同じ表現でYMCAを語るようになることで、まだYMCAを知らない人達にも私たちが大切にしている価値が伝わり、多様な社会課題の解決に寄与できるYMCAで有ることを明確にすることを目的としている。

YMCAブランドコンセプトー「これが日本のYMCAです」

* **V i s i o n n** (YMCAが実現したい世の中の姿)・・・互いに認め合い、高め合う『ポジティブネット』(互いの存在や個性を認め合い、高め合う事のできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク)のある豊かな社会を創る。

* **V a i u e** (YMCAがステークホルダーに提供を約束する価値)・・・したい何かが見つかり、誰かとつながる。私が良くなる、かけがえのない場所。

* **P e r s o n a l i t y** (ブランドとして備えているべき個性、らしさ)・・・心をひらき、わかち合う。前向きで、まわりを惹きつける魅力を持つ。これに基づき、YMCAの価値を内外に明確にするブ



ランド作りに取り組み、全国的に展開していく。昨年実施したYMCAイメージオンライン調査で多くの一般の方達はYMCAの事を「知名度はあっても、何をやっている団体かわからない」と思っているとの結果が浮かび上がった。このイメージを払拭していく第1段階として「私たちは何者か」をオールジャパンYMCAとして顧客目線に立ち、解りやすく伝えるための「ブランドコンセプト」を定義した。これは外に直接発信するものではなく、コミュニケーションの方法や内容、事業を考えたりする際の基盤となるもので当初は内部で共有されるものとしている。

全国のYMCAがブランドコンセプトを共有し、ベクトルを合わせて情報発信できたら、より早く、より強固なYMCAブランドが構築されるとしています。詳しくは「THE, YMCAニュース、NO759, 2016年9月号」を参照ください。

続いて山梨YMCAの将来計画の現状説明が野々垣メンから報告が有りました。以前に説明会で提示された山梨YMCA中期計画案の中で道路拡張に伴い現存会館は取り壊しになる。新会館建設は現在地か移転か

を早急に検討する時期に来ており、移転する案には移転地が必要ですので候補地になりそうな土地があれば提案願いたい。出来れば現在地に近ければよりベターである。県との補償交渉も近日中に開始になる等の説明が有り、皆さんの意見、提案を頂き2016年中に詰め切りたいとの近況報告がされました。尚、この報告資料作りに協力いただいた山本俊一氏、小澤メンに御礼申し上げます。



徘徊ミャンマー編

葉袋勝メン

『上座仏教：上座とは長老の教えという意味で。時代や環境の変化に対応して仏陀の教えも柔軟に解釈して構わないとする大乘仏教に対して、あくまで教えに忠実であろうとする長老派の信念に基づいている。従って、その特徴は、出家中心主義と、戒律至上主義である。』

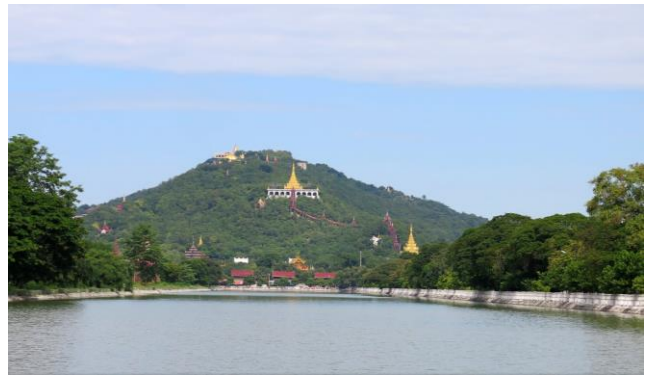
なぜミャンマーへ

小学生の頃、最初に感激した小説「ビルマの豎琴（竹山道雄作）」に影響され何時はビルマに行きたい夢が、60年間細々と残っていた影響によるかも……。この小説は、ビルマを侵略した日本軍の水島上等兵が、敗走時に病に倒れ、地元の住民に助けられた。その後、ビルマ僧に身を変え、途中少年より教えられた豎琴を弾きながら、道端に転がる戦友の死体を葬りながら、捕虜収容所へ向かう過程を描いている。二回にわたって映画化され、大変人気のあった小説だが、ミャンマーではここに書かれた僧の表現は、ビルマ仏教を冒瀆するものとして話題になり、ミャンマー語に翻訳化が出来なかった経緯があった。日本の仏教（大乘仏教）の理解で書かれた小説で、ミャンマーの上座仏教で有り得ない楽器をたしなむ僧、即ち破戒僧を主人公とした小説が認められないのは当然かもしれない。夢は、無残に壊されたけれど、へそ曲がりとしてはますますミャンマーに興味を持った。

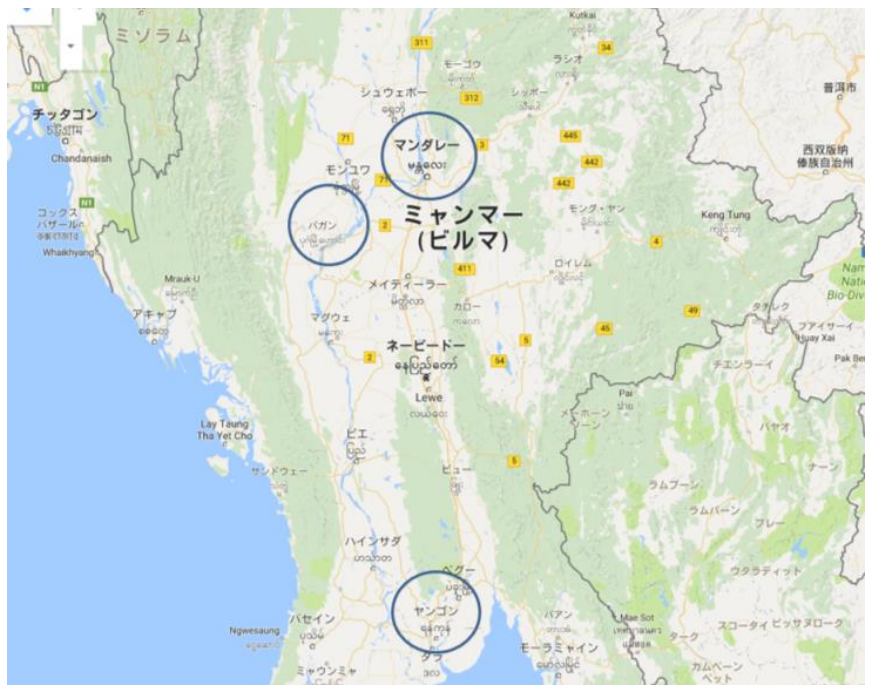
(Myanmar Go!)

羽田からマンダレーへ

羽田を15日の0時30分出発、バンコクで乗り換えのため6時間待ち、やっと14時マンダレー到着（時差2時間30分）ホテルにチェックインしてもまだまだ日が高い、徘徊精神むらむらと着火、近くにある宮殿跡周辺を散歩、熱帯特有の湿度のある暑さにいささか参ってぼやっと立っているとバイクのおじさんが近づいてきて、乗らないかと誘われる。こ



れぞ東南アジア特有のバイクタクシー。今まで、チョピリ危険(?)と思い指を食えて眺めていたが、今回はフラッと乗車、鉄道駅に向かう。ホテルも併設された立派な駅舎だが、薄暗くあまり活気がない。どうもバスに押されているようだ。丁度夕暮れが近づいてきたので、エーヤワディ（イラワジ）川河畔にサンセット観光。雲が多かったが、まあまあ眺め。途中電飾に飾られた寺院を横目に眺めホテルに帰着、約1時間のドライブで1万Ks（チャット：ゼロを1つ取ると日本円）の支払い、爽やかな風を感じ気に入りまた片言の英語が通じたので、明日も予約して別れる。2日目マンダレーヒルを含め市内半日観光、バイクタクシーで機動的、能率的に回る。マンダレーヒルは、仏教の聖地、愛宕山の半分の高さの丘に、屋根付き階段を土足厳禁（靴下もダメ）、裸足で約1時間かけて登る。この裸足の苦行は、今後すべてのパゴダなどの仏教施設共通でした。バイクの運ちゃんが、バイクで頂上まで行くことを勧められたが、徘徊精神を誇る私としては、湿度90%以上の環境下でパンツまでビショリになりながら登頂、これも苦行か?・・・でも仏教徒では



ありません！山頂で待っていたバイクに乗りあつと言う間に下山。翌日、エーヤワディ河クルーズに参加、滔々と流れる水面と広がる平野を眺めていると、70年前英印連合軍に、制空権を取れずに負けた日本軍の無茶な戦争がしのばれた。

マンダレーからバガンへ

クルーズボートでバガンまで1日川下りを楽しもうと考えていたが、シーズンオフのため、定期運航していないため予約が取れず、ネットで見たホッパ山経由バガン行き（自家用車、ガイド付き）のコースを予約し、ホテルドアツードアの豪華な旅行を楽しんだ。ホッパ山は、土着信仰のナツツ神を祭っている霊場で、ミャンマー人に広く親しまれている。目的地に近くに従い渋滞が始まり、2時間以上到着が遅れた。これは、満月の二日目に行われるお祭りで、全国より参詣に集まってくるため、いい機会に恵まれました。ミャンマーの人々は、食事や日用品を街角で、毎朝多くのお坊さんにお布施をしており、この姿を見ていると、すごい仏教徒だなと感じていたが、ホッパ山の状況をみると、日本の神仏混合を見ている様で、ホックリしました。また、すごい渋滞でも静かにおとなしく待っている様子は、他の東南アジアの地域には見られないものでした。夕方遅くバガンに到着、メインの遺跡見物が始まりました。このバガン、昨年行ったインドネシアのボルブドールと有名なアンコールワットが世界3大仏教遺跡と言われおり、今回で全部制覇、すごい仏教徒の様に思われますが、何回も繰り返しますが仏教徒ではありません！バガンには、いたる所パゴダや寺院がありちよっぴり消化不良気味でした。ただ、仏様の前で老若男女が敬虔にお祈りしている姿を見ると、さすが仏教国だなと感じられ、また崩れかけた遺跡でも仏教が息づいており、他の2か所の観光遺跡と趣が異なっておりました。パゴダは仏として作られており、布一枚でも体と隔てて接触するのは失礼である為、裸足にならなければならず、古いパゴダの床はザラザラになって居り足裏が痛く、悲鳴をあげました。このバガン、最近地震に見舞われ日本でも報道されましたが、被害はそれほどひどい状況でなく、一部のパゴダは補修中で入場出来ませんでした。壊れたパゴダの多くは、10年前に起こった地震によって壊れ補修した部分が今回も壊れたようです。補修技術があまり高くなく、外国の援助が望まれます。てな事を思い巡らしていると、目の前の広場に JICA のスツッカーを張ったバスが駐車しており、何かと近寄ると、関係者が



現れこのバスに乗らないかと勧めてきました。このバガン全体の観光交通システムを検討するために、約一時間間隔（無料）で周回しているプログラムのテストランを二日間行っているとの事、早速乗車、歩いてはいけない場所へGo。おかげで、地域全体のオリエンテーションが出来、翌日ホテルで借りた電動バイク、あちらこちらの徘徊が可能となりました。ただ、バスの冷房が効きすぎて、汗びっしょりの衣服で乗り、これ以降ヤンゴンまで体調をチョピリ悪くしたのは残念！

バガンからヤンゴンへ

久しぶりにプロペラ機で約1時間移動、何年ぶりだろう、バガンのホテルはリゾートホテルでゆったりとした環境で楽しみましたが、ヤンゴンのホテルは、大都会の下町ある安宿(?)で生活臭あふれこれまた楽しめるものでした。アジア特有の混沌としています、クラクションはあまり聞こえず、不思議な世界でした。仏教だけでなく、ヒンドゥ、イスラム及びキリストの各教会が競って建っており地方と大きく異なっていました。

稲垣さんとの約束の字数にせまって来ました、後は別の機会にスライドで・・・

(写真はGoogleより)

YVLF報告

第29回ユースボランティア・
リーダーズフォーラムに参加して

小澤智之メン

第29回ユースボランティア・リーダーズフォーラムが9月9日から11日の3日間、東京YMCA山中湖センターで開催されました。このフォーラムは、東日本のYMCAに所属する新米ボランティアリーダーが集まり、疑問や悩みを共有し、今後の活動への動機付けをするイベントです。甲府21クラブからは、松村



会長、野々垣メン、私の3名が9月10日のプログラムに参加しました。

フォーラムに参加したのは、北海道、群馬、栃木、埼玉、東京、神奈川の各YMCAに所属するユースボランティアリーダーの皆さんとワイズメンの方々でした。山梨からのリーダーの参加者がいないことは残念に思いました。この点は山梨YMCAの課題の1つです。

午前9時から行われた青山鉄兵さんによる「今ユースボランティアリーダーに求められること」と題した基調講演は大変勉強になりました。青山さんは、前東京YMCA野尻学荘プログラムディレクターで、現在は文教大学人間科学部准教授と文部科学省生涯学習調査官などを兼務されています。

ユースボランティアリーダーに求められることの大事な要素は3つあると青山さんは強調しました。1つ目は「関ること」です。人間は言葉などを学校ではなく自分で身につけます。辛いこともあるけど価値観が違う人と関わる中で人は育ちます。なので、関ること



が大事というわけです。2つ目は「遊ぶこと」です。子供を成長させる為に教育的に遊ばせようという発想自体が実は遊びを死なせています。遊び心を大事にして無駄なものをいかに許容できるかが学校と違う遊びの良さなのです。3つ目は「悩むこと」です。昔、YMCAの勉強会でリーダー達にアンケートを行ったら、全人教育という言葉は知っていても意味を知らない人がほとんどだったそうです。「なぜキャンプソングを歌うのか?」「なぜリーダーはニックネームをつけるの

か?」など意外に答えにくいものがあります。YMCAの活動は、拘りや狙いがあるって行われています。なので、自分達がやっている根っこを考え、「これでいい



のかあ?」と悩む状態をキープしながら努力を続けていくことが大事なのです。青山さんが説明してくれた3つの要素は、YMCAに関わる者すべてが大切にしていかなければならないと改めて実感しました。

基調講演後、リーダー達はグループに分かれ、講演の内容を振り返り、改善すべき点などを真剣に話し合っていました。その姿を見て、YMCAの未来は明る





いと感じました。リーダー達が話し合っている間、ワイズメンは野外カレー作りに挑戦しました。薪で火を焚き、野菜や肉を鍋に入れ、調理を行いました。調理方法などを長年の勘でカバーした豪快なワイズ風野外カレーの味はリーダー達に好評で、あっという間にカレーはなくなりました。

午後2時から青山さんがワイズメン向けに「楽しいYキャンプ入門」と題したセミナーを行いました。青山さんが強く訴えたのは、YMCAのキャンプが青少年の全人的成長（Body, Mind, Spirit）を支え、学校以外での青少年の成長を支えるためにあり、その成長を助けるボランティアリーダーは絶対に必要だということです。

たまたま今年の夏に厚木市のYMCA健康福祉専門学校が参加した本栖湖でのキャンプの様子をまとめた動画データを持っていたので、会場で上映させていただきました。廣瀬メンが直接カヤックの指導を行う様子に参加したワイズメンの方々が驚いていたのが印象的でした。今回のフォーラムに参加して、青少年の成長を支えるキャンプを行うことの重要性を改めて認識させられました。キャンプ事業の強化とリーダー養成は急務だと思います。ワイズメンが協力して具体的に進めていかなければならないと思いました。



9 月 第 2 例 会 報 告

寺田喜長 書記

日 時 2016年9月20日（火） 18：30～

会 場 YMCAセンター

出席者 稲垣、小澤、功刀、駒田、佐藤、茅野、寺田、
野々垣、廣瀬、古屋、松村（禎）、松村（豪）、
山縣 13名

協議事項

1、10月例会について

日 時 2016年10月4日（火） 午後7時～

会 場 山梨YMCAセンター

司会：葉袋メン、 一言：寺田メン、
ペンリレー：葉袋メン

1) ゲスト卓話 講師 佐野将恵様、
演題「玉穂キリスト教集会所の設立と現在の活動」
ゲスト紹介 鎌田メン

2) 会員卓話

小澤メン 「ベビーカーコンサートについて」

・宮内メン（東京多摩武蔵野クラブ）が出席予定

2、あずさ部会参加について

日 時 2016年10月22日（土）

13：00受付、 13：30開始

会 場 在日本韓国YMCAアジア青少年センター

部会ですので役員でない会員の方も参加ください。
締め切り10月10日、希望者は書記寺田迄連絡ください。
20日現在参加予定者、松村会長、駒田、古屋、
寺田、野々垣

3、11月例会（2016年11月1日）の予定

・ゲスト卓話 講師 小山久恵様（東京サンライズ）

「BFオーストラリア訪問報告」

・後藤哲夫氏の了解が得られれば、入会式を行う

4、YMCAバザーへの協力体制について（CS担当）

第1回バザー委員会（9/15）

報告（21クラブ関連）と対応
駐車場係を甲府クラブと共に担当 担当主任山縣メン

